

医療薬学学術小委員会（新規）

1. 小委員会名、研究テーマ

小委員会名	2024年度医療薬学学術第3小委員会
研究テーマ	生成系 AI の薬剤師業務への応用に関する実態、課題やニーズの調査

2. 小委員会の委員長、構成委員

委員長	フリガナ	キヨミヤ ケイスケ
	氏名	清宮 啓介
	所属施設の名称 (正式名称)	慶應義塾大学 薬学部

構成委員	氏名	所属
	若林 進	杏林大学病院薬剤部
	男全 昭紀	横浜市立みなと赤十字病院 薬剤部
	大野 能之	東京大学医学部附属病院薬剤部
	河添 仁	慶應義塾大学薬学部
	佐藤 弘康	J A 北海道厚生連網走厚生病院薬剤科
	大谷 壽一	慶應義塾大学医学部

3. 研究の目的

生成系 AI は文章生成、言語翻訳および質問応答など優れた自然言語処理機能を有している。代表的な生成系 AI である ChatGPT3.5 は 2022 年の発表以降、急速に普及している。教育現場においては各大学が生成系 AI の利用に関する指針を発表しているが、医療現場における指針は発表されておらず、その利用状況は不明である。生成系 AI は、入力された情報が AI の学習に利用されるため、医療現場においては個人情報流出の懸念などの問題点も指摘されている。また、出力された情報の誤りや妥当性を確認する必要性も、懸念点として指摘されている。実際に、申請者らは ChatGPT3.5 を利用し、OTC 薬に関連する質問を投げかけた場合の回答を分析し、その問題点について英文学術誌に報告している (Kiyomiya *et al.*, *Die Pharmazie*, 2024, 79, 24-28)。

2024 年度から医師の働き方改革が施行されるため、各施設においてはタスクシフト/シェアが押し進められている。その中において、病院薬剤師の活用も積極的に進めていく必要があるが、そのためには従来業務

の効率化が求められる。また、病院薬剤師の不足、地域偏在も指摘されており、限られた人材を有効に活用することが不可欠である。

以上のような背景から薬剤師業務において生成系 AI を利用していくことは、今後の業務に欠かすことができないツールとなり得る可能性がある。そこで、本研究においては、アンケート調査などを介して、各施設と各薬剤師における生成系 AI の利用状況とその実態をできる限り正確に把握する。これにより、生成系 AI の病院薬剤師業務への活用に関して、その可能性と課題を明らかにし、最適な活用方法を見出すとともに、「病院薬剤師業務における生成系 AI 活用のガイドライン」を作成することを目的とする。

4. 活動計画

(1) 初年度 (2023 年度)

構成メンバー全員にて、アンケート項目の協議を実施する。具体的には、各病院施設もしくは薬剤部として業務に生成系 AI を利用しているか否か、利用する際に規定していること、各個人において生成系 AI を利用しているか否か、用途、および頻度等について収集することとする。また、その活用事例や課題についても情報を収集する。

アンケート項目の作成後、倫理委員会へ研究申請を実施する。研究実施許可後、各施設へアンケートの協力依頼を実施する。平行して、アジア諸国の病院薬剤師業務での生成系 AI の利用実態を調査する。

(2) 2年度目 (2024 年度)

初年度で収集したアンケート結果を解析し、どのような利活用が望まれるのかを検討する。

具体的には、病棟業務、医薬品情報および薬物相互作用の観点から、生成系 AI を用いて応用できる業務課題を検討する。生成系 AI に関する情報を収集し、課題解決の対策を考案する。

病院薬剤師業務における生成系 AI 活用ガイドライン(草案)を作成し、医療薬学会年会にてシンポジウムを開催し、意見を収集する。

(3) 3年度目 (2025 年度)

2 年目の調査結果を受けて、研究成果を医療薬学誌に報告し、その利活用について提言を取りまとめる。「病院薬剤師業務における生成系 AI 活用ガイドライン」として公表する。

5. 共同研究、他学会・団体からの支援 (COI 申告を含む)

該当なし